

<教育目標>



英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

新しい^ま都会^ちに (中野中だより)

平成 29 年 10 月 31 日発行

No. 9 校長 矢口 仁

「読書の秋に」 — 読書週間 10/27~11/9 —

校長 矢口 仁

里古りて 柿の木もたぬ 家もなし 松尾 芭蕉

10月27日(金)に、なかの ZERO 大ホールで合唱コンクールを行いました。各学級、練習の成果を発揮し、素晴らしい合唱がホールいっぱいに響き渡りました。特に、3年生の全体合唱「大地讃頌」は、完成度が高く、心に残る合唱でした。平日にもかかわらず、多数の保護者のご来場がありました。まことにありがとうございました。



さて、10月27日(金)~11月9日(木)が、読書推進運動協議会による「読書週間」です。(本校では、11月27日~実施します。)戦争の傷跡が残る1947年、「読書の力によって、平和な文化国家をつくろう」という決意のもと、出版社、書店、公立図書館等がまとめ、読書週間を始めました。第1回は11月17日からでしたが、2回目以降は、文化の日の前後二週間ということで全国的に定着し、現在に至っています。

読書は、多くの言葉に触れることによって、語彙や知識を豊かにしてくれるものです。また、最近求められている「主体的な学習」、つまり、自分から進んで、目的をもって学ぶ学習の基礎となります。さらに、古今東西を問わず、たくさんの人物の生き方、考え方に触れることができ、人の心を豊かにしていくものです。ぜひ、朝読書の時間を始め、様々な場面で本に触れてほしいと思います。

今週の朝礼では、二年前の本屋大賞受賞作「羊と鋼の森」(宮下奈都 著)を紹介しました。ピアノは、鋼(はがね)でできた固い弦を、固いフェルト(羊の毛)がついているハンマーでたたいて音を出します。「羊と鋼の森」は、ピアノ調律師の話です。

高校3年生の主人公が、体育館のピアノを調律しに来た人と偶然出会い、その音色の美しさに感動したことから、調律師を目指します。専門学校に通った後、就職し、苦勞しながら自分の技術を磨きます。また、調律を通して出会った人との交流を通して、人としてだんだんと成長をしていく物語です。調律師が素晴らしい職業だということを理解できます。また、主人公の外村君の素朴な人柄が、魅力的です。

このように、本には人の人生が詰まっています。人の生き方、考え方、その人の成長を目の当たりに感じるすることができます。その中で、自分の考え方や生き方を深めることができると思います。秋の夜長、読書の時間を多くとってみませんか？